

<電子・先端プロダクツ>

Q1：生成 AI 関連として需要の拡大が期待されるスネクトンと低誘電正接シリカにおいて、マザーボード向けと半導体パッケージ基板向けでは、どちらで採用が進んでいるか？（説明会資料 P19）

A1：足元では、両製品の特徴である低誘電性がより発揮される領域であるマザーボード向けから採用が進んでいる。パッケージ基板向けは、順次評価が進んでおり、今後採用が期待される領域。

Q2：アセチレンブラックのタイでの新拠点建設における投資の回収について、EV 市場の成長が鈍化しているが、高圧ケーブル向けの需要拡大で十分カバーできるのか？（説明会資料 P20）

A2：アセチレンブラックは売上高の約 50%を高圧ケーブル向けが占めており、電力需要の拡大に伴う確実な需要の拡大を見込んでいる。xEV 向けは市場の成長は遅れているが、中長期的には市場が拡大すると考えていることに加え、中国向けの販売拡大を計画。

<エラストマー・インフラソリューション>

Q3：5月13日に米国 DPE※のクロロプレンゴム製造設備の期限を定めない暫定停止を決定したが、その後の進捗状況は？

A3：大きな進展はない。ステークホルダーとの調整を継続中。

※Denka Performance Elastomer LLC：米国クロロプレンゴム製造子会社

<ポリマーソリューション>

Q4：ダウンサイジングを含む生産最適化の今後の方向性は？（説明会資料 P28）

A4：スチレン系製品は食品包装用途の需要減など、コロナ前と比べて市場全体の需給バランスが緩くなっているため、生産体制の最適化が必要。まずは自社のみで実施できる生産最適化を進めつつ、業界の再編の流れを注視して、同業他社との協業も含めて改革を進めていく。

<組織作り>

Q5：社内で危機感や改革の必要性が共有されているとのことだが、どのように受け止めているか？（説明会資料 P47）

A5：DPE の暫定停止を決定したことで不安は一定程度解消されたと認識している。しかし、2023 年度と 2024 年度の営業利益が低迷しており、依然として会社全体で危機感が共有されている。2025 年度の営業利益 250 億円の達成に向けて、全社員が一枚岩となって取り組んでいる状況。

<財務戦略>

Q6：2025～2026 年度の投資の見通しは？（説明会資料 P53）

A6：投資は意思決定ベースでは既にピークを越えたが、タイのアセチレンブラックの新拠点建設など、既に意思決定している大型投資案件の大きな投資キャッシュアウトが工事進行に伴って 2026 年度までは続く見通し。2027 年度以降は、投資を厳選している抑制効果が出る。

以上